

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立津山西中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①学方向上委員会 ⇒②数学科 ⇒③各教科 ⇒④企画委員会	1)基礎的・基本的な知識・技能の定着 2)学習意欲の向上 3)学び方の指導と習得 4)学校全体で取り組む学力向上	2学期中	1)確認テスト(リチャレ)及び、定期考査への活用と検証 2)～4)全教員で取り組む支援	・確認テスト(リチャレ)において、平均正答率80%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	①企画委員会 ⇒②学年団会 ⇒③教科部会 ⇒④生徒会、PTA	1)宿題提示(家庭学習の手引き、学活、授業開き) 2)定期的な確認とフィードバック 3)取り組みの検証 4)学校全体で取り組む意識向上	2学期中	1)各教科による提出状況の共有 2)学年団での対応 3)改善点の指示など、企画委員会での対応 4)生徒会、PTAとの連携	・生徒アンケートにおいて、平日の家庭学習時間1時間以上70%。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>≪3年生 全国≫ ○数学の平均正答率は60%と、全国平均(59.8%)を上回り、国語(65%)、英語(47%)については全国平均をそれぞれ7.8%、9.0%下回った。 ○国語では「話すこと・聞くこと」領域に課題がある。「話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く」:46.6%(全国60.4%) ○数学では「関数」や「資料の活用」領域は全国平均を上回っているが、「図形」領域が全国平均を下回っており課題がある。 ○「反比例の表から式を求める」:66.9%(全国48.9%)「四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する」:39.1%(全国53.3%) ○英語では「書くこと」領域に課題がある。「文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する」:39.1%(全国58.2%) ○「与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く」:14.3%(全国32.9%)</p> <p>≪2年生 県≫ ○国語、数学、英語ともに、標準スコアが50を下回った。(国語48.4 数学47.3 英語45.3) ○国語では「漢字の読み」「物語文の読み取り」に関する問題の正答率が高く、無回答率も県平均と同等かやや低い。 ○数学では「資料の活用」領域に課題がある。「数と式」領域は正答率が9割近い問題もあり、県平均との差が小さい。 ○英語では「書くこと」領域、「外国語表現の能力」の観点、「3文以上の英作文」「単語の並べかえによる英作文」の問題に課題がある。</p> <p>≪1年生 県≫ ○国語、数学ともに、標準スコアが50を下回った。(国語43.9 数学45.9) ○国語では「書くこと」領域に課題がある。漢字の書き、三段落構成で文章を書く問題の正答率が低い。 ○数学では「図形」領域に課題がある。「数と計算」領域では他領域にくらべ県平均との差が小さいが、分数の計算の問題に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○将来の夢や目標を持っている生徒の割合が75.7%と、全国平均(70.5%)よりも5.2%高い。 ○「学校に行くのは楽しい」と感じている生徒が85.6%と、全国平均(81.9%)よりも3.7%高い。 ○地域の行事に参加している生徒の割合が56.0%と、全国平均(50.6%)よりも5.4%高い。 ○平日1時間以上読書をする生徒の割合(15.1%)や週1回以上図書館に行く生徒の割合(17.5%)が、全国平均(12.4%、8.3%)よりも高い。 ○自分には良いところがあると思う生徒の割合が68.2%と、全国平均(74.1%)よりも5%以上低い。 ○「家の人と学校での出来事について話をする」生徒の割合が80.0%と、県平均(86.7%)よりも6.7%低い。 ○「家で計画を立てて勉強をしている」生徒の割合は37.1%と、全国平均(50.4%)よりも10%以上低い。 ○平日1時間以上勉強している生徒の割合が59.1%と、全国平均よりも10%低い。 ○休日になるとまったく家庭学習をしない生徒の割合が18.1%と、県平均よりも9.5%高い。 ○平日にゲーム機や携帯電話、スマートフォンなどでテレビゲームを2時間以上している生徒の割合が48.0%と、県平均より5.5%高い。 ○平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上している生徒の割合が28.9%と、県平均より5%高い。 ○携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている生徒の割合が54.6%と、県平均より3.2%高い。 ○平日のテレビ等の視聴時間が2時間以上の生徒の割合が49.5%と、県平均とほぼ同じである。</p>

成果	課題
<p>○問題データベースを活用した授業づくりにより、基礎学力の向上が見られた。その結果、特に3年生数学においては初めて全国平均を上回る結果となった。 ○西中タイム等の時間を活用し「津山チャレンジテスト」を中心に数学の復習に取り組んだり、全校で学期毎に「全校統一テスト」を実施することにより、基礎的・基本的な内容が定着した。 その結果、特に3年生において無回答率が減少した。 ○学年団で全教科の宿題の量や提出日を把握管理したり、課題の未提出者への補充学習を行うことで、意識して宿題に取り組む生徒が増加した。 ○「週末課題」、「漢字力育成の課題」、「英単語力育成の課題」、「自学ノート」等の取り組みによって家庭学習を行う生徒が増えた。 ○(平日勉強時間)時間未満 本年度2年生38.6% 1年次48.2%</p> <p>○授業で、グループの中で課題を立てて、話し合いをしながら学習活動に取り組んでいる割合が高くなっている。学びあいを進めている成果である。 (学校調査で「授業内容がわかる」「友達の見聞を聞いたり協力して取り組む時間がある」の項目において、肯定率85%以上) ○学期毎にメディアコントロールの取り組みを行うことにより、生徒・保護者のメディアに対する意識が高まった。</p>	<p>○9割の生徒は学校の宿題をしていたが、「家の人から言われなくても進んで勉強する。」「自分で計画を立てて勉強をする。」ということができない生徒の割合が県平均を上回っている。 ○将来の夢や目標を持っている生徒の割合は全国平均を上回っているが、家の人や先生に認められていると感じる生徒の割合が低く、自己肯定感が低い。 ○「授業では、私語が少なく、落ち着いた雰囲気の中で学習ができた。」という割合が65.2%となっており、落ち着いた授業環境づくりの継続が必要である。 ○話し合い活動の中で、人の話をしっかりと聞き、自分の考えを書いたり伝えたいということが苦手な生徒が多い。 ○自分で計画的に勉強を行うことや、主体的に学ぶとする意識が低いため、スマートフォンなどのメディアや遊びが多い。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
「主体的・対話的で深い学び」にむけた授業改善	年度末	・全学年「授業の内容がよくわかる」の割合を80%以上 ・全学年「友達の見聞を聞いたり協力して取り組む時間がある」の割合を90%以上	・研修や教科部会を通して、指導法の研究・実践を進める。 ・授業アンケート(生徒、教員)を実施し、現状を分析するとともにOJTを活用した授業改善に努める。 ・学びの手応えが実感できるよう、「振り返り」の時間を設ける。					
基礎学力の定着	年度末	・確認テスト(リチャレ)において、平均正答率80%以上	・西中タイムのより効果的な運用(数学以外の教科も含め)を図る。 ・問題データベースを活用する。 ・補充学習を実施する。					
家庭学習の定着と充実	年度末	全学年「平日家庭学習を1時間している」の割合を70%以上	・各学年団での課題の把握・管理と拡充を図る。(2年生での「週末プリント」の実施、「学びの連続性」の観点から小学校との連携を進める。) ・メディアコントロールの取り組みを学期毎に行う。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%未満)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○小中連携重点5項目の取り組みを継続。 「家庭学習(宿題)の100%提出をめざす」「チャイルド同時スタート チャイルド同時終了」「授業の中に学び合いを」「ことばづかい」「きれいな教室」 ○小中全職員による夏季休業中の合同研修会の開催。(重点5項目について、学校づくり・授業づくり・生徒理解へ向けての協議) ○連携担当(英語)による研究授業の実施 ○小中連携の取組を促進するべく、話し合いをしながら学習活動に取り組んでいる割合が高くなっている。学びあいを進めている成果である。 ○小中連携の取組を促進するべく、話し合いをしながら学習活動に取り組んでいる割合が高くなっている。学びあいを進めている成果である。 ○中グッドスタートのための出前授業や演奏会による交流。</p>	<p>○「家庭学習の手引き」「家庭学習習慣の定着に向けて」「家庭学習のスタンダード(増補版)」を基に、学級懇話や個人懇話などで家庭学習習慣の定着を呼びかける。 ○学期毎に「メディアコントロール週間」の取り組みや「チャレンジハッピーデー」を活用して親子で触れ合う時間の設定をする。 ○家庭学習習慣定着の取り組みをPTA活動目標に設定し、研修会の開催や「うさぎメール」など利用した啓発活動を行う。</p>